

学科	科目	単元分野	学習目安 時間(分)※
英米文学科	英文法・語法	受動態	63
	英文法・語法	関係詞	268
	英文法・語法	疑問詞・疑問文	35
	英文読解	英文解釈(基礎)	294
	英文読解	パラグラフ(基礎)	84
歴史文化学科	英文読解	英文解釈(基礎)	294
	英文読解	論理構造を示すマーカー	140
中国語学科	英文読解	英文解釈(基礎)	294
法律学科	英文読解	英文解釈(基礎)	294
	英文読解	パラグラフ(基礎)	84
	英文読解	長文問題の解法	153
国際関係学部	英文読解	パラグラフ(基礎)	84
健康科学科	化学基礎	物質と化学反応式の基礎	131
	化学基礎	物質と化学反応式(質量・体積計算)	137
	生物基礎	生物の観察方法と特徴	118
	生物基礎	代謝	50
	生物基礎	遺伝子(遺伝情報とDNA)	36
	生物基礎	遺伝子(遺伝情報の分配と合成)	110
	生物基礎	生物の体内環境(恒常性・体液)	43
看護学科	生物基礎	生物の体内環境(恒常性・体液)	43
	生物基礎	生物の体内環境(神経とホルモン)	127
	生物基礎	生物の体内環境(免疫)	122
社会学科	英文読解	英文解釈(基礎)	294
	英文読解	論理構造を示すマーカー	140
	英文読解	パラグラフ(基礎)	84

※個別最適学習で回答時間が個々で異なるため、学習時間は目安として考えて下さい

単元設定の理由

英米文学科	英米文学科で学ぶ上で、基本的な英文を組み立てる力、文と文を結びつける力、また英語で書かれた文章を正確に読み取る力が求められます。そのために必要な英語能力を育成するための単元が設定されています。
歴史文化学科	歴史文化学科では入学後、2年生から東西文化コース、日本史コース、観光歴史学コースの3つのコースに分かれて、歴史文化学を修得していきますが、うち2つのコース（観光歴史学コース、東西文化コース）を中心に、英語もかなり使用します。特に、その東西文化コースの西洋系では、西洋（ヨーロッパ・アメリカなど）の文献資料を十分に読み解く必要があるため、入学前からすでに英語の文章の読解の基礎を身につけている必要があります。現時点で英語力に不安がある場合でも、入学前にこれらの単元を十分に習得しておくことで、自信をもって大学での歴史文化学修得のスタートを切ってみませんか。
中国語学科	中国語学科は、国際社会に貢献できる高度なコミュニケーション能力と応用能力をもつ人材の育成を目的としています。異文化理解には、言語の修得だけでなく、文化や価値観、社会背景の違いなどについて深く考え、他者を尊重し、多文化と共生する力が必要となります。中国語学科に入学される多くの方にとって、中国語は初めて学習する言語だと思いますが、外国語学習という点において、みなさんには高校までの英語学習の知識があります。発音、単語、文法など言語の基本構造、「読む・書く・聞く・話す」という基本技能、物事を論理的にとらえる思考、相手にわかりやすく伝える表現力などを培うことは言語学習に共通する要素であり、英語と中国語、相互の学習に活かせる能力でもあります。中国語学科では高校までの英語学習の知識をさらに発展させるために、1年次の基礎必修科目として「総合英語」「英語コミュニケーション」を設けています。この「英文読解」の単元をしっかりと学習し、基本の英単語、文法事項を確実に身につけ、入学後の学習に備えてほしいと考えています。
法律学科	法律学は、じつは外国語の学習に少し似ています。見慣れない言葉や表現に出会ったとき、辞書を引きながら文章を読むという経験は、英語でも法律でも共通するものです。法律では「善意」などの用語が日常とは異なる意味で使われていますし、法律の教科書は一文が長くなっています。法律学科では、六法（主要な法律を集めた辞書のような法令集）で条文を参照しながら、条文の意味を読み解いていきます。たしかに法律は日本語で書かれていますが、文を丁寧に読み解き、意味を確かめながら自分の考えを形にしていく作業は、外国語を学ぶプロセスとよく似ているのです。英語を学ぶことは、ただ語学力を高めるだけではなく、このように法律の文章に向き合うための「読みの力」を鍛えることにつながるのです。また、英語を学ぶことは、異なる考え方にふれる経験にもつながります。法律学では、選択的夫婦別姓制度の導入の是非や安楽死の是非といったように、異なる考え方と対峙する場面も存在します。英語学習を通じて得られた読解力を活かして、国内・国際社会の諸問題に取り組みたいという強い意志を持つ人を、この選抜で募りたいと考えています。
国際関係学部	国際関係学部では、多様な個性を持つ学生を求めています。グループ討論は少し苦手でも「一人で英語を学ぶのが好き」という方の意欲を正に評価したいと考え、本単元を設定しました。 国際情勢や多文化共生の事象を深く理解するには、英語圏から発信される一次情報に触れることが不可欠です。パラグラフの論理構造を正確に読み解く基礎力は、本学部でのアジア地域研究などを進める上での強固な土台となります。この学習で培われる力は、大学での学びを豊かにするだけでなく、将来英語を武器に世界で活躍するための大きな基礎となるはずで、論理的な「読みの力」を鍛え、アジアの未来を英語で考えられるようになってみませんか。将来国際的な場で活躍したいという意思を持った生徒の取り組みを期待しています。

健康科学科	<p>健康科学科では、人体の機能と健康維持・増進について健康科学の様々な視点から学びます。また、「臨床検査学」「食品・栄養」「運動とスポーツ」そして「自然科学と理科教育」に関わる3つのコースが設置され、それぞれで魅力ある専門的な授業が行われるとともに、将来の希望に沿った様々な資格の取得を目指せるようなカリキュラムが展開されています。これらの学科の専門科目を学ぶためには、その土台となる化学や生物学の基礎的知識を身に付けることが必須であるため、今回示した単元の修得を求めています。健康で豊かな人間生活が求められる昨今、健康科学科で身に付けた知識や技能を活用し、社会に貢献できる人材を、募りたいと考えています。皆さんも、健康科学科での学びを活かし、社会に貢献できる職業を目指してみませんか。</p>
看護学科	<p>看護学科には、1年次に「人体の構造と機能I・II」として、1年間かけて学習する必修科目で行う必修授業があります。この科目は看護学の土台となる最重要科目の一つです。</p> <p>これを受講する前提として、この単元の受講並びに修得を求めます。</p> <p>この単元を積極的に修得することは、看護学科のアドミッションポリシーのうち「1.入学後の学修に必要な基礎学力としての知識を有している」はもちろん「3.看護の対象者である人間が好きで、その健康に関わる諸問題について、深い関心と倫理観を備え、看護を学びたいという意欲がある」にも相応しています。</p> <p>看護学を学ぶ事前準備並びに基礎固めとして、挑むことを望みます。</p>
社会学科	<p>社会学部では「英語、フレッシュマンセミナーなどを通して、社会生活に必要なコミュニケーション能力や協調性を養う」を学部のカリキュラムポリシーに掲げており、英語教育を重視しております。そもそも移民、ジェンダー、労働、都市問題など、社会学における重要な理論や概念は、国境を越える現象を扱う学問であり、また英語圏で生まれ発展してきたものも少なくありません。</p> <p>また、社会学の分野で用いられる資料には、英語で提供されているものが多々あり、英語力を磨くことにより、データ・資料を自分で検証できるようになります。すなわち英語を学ぶことは、異なる文化や価値観を理解する訓練であると同時に、そうした知識の源泉に直接に接する機会を与えてくれることを意味します。日本語に限らず文章読解力を磨いて、それを専門である社会学への武器とすることのできる人を期待します。</p>